

第2章 食をめぐる現状と課題

竜王町は自然に恵まれた地域であり、四季折々の米や野菜、果物などを竜王町特産の農産物として手軽に食生活に取り入れることができます。

また、住民・関係機関の距離が近く、これまでからも園や小中学校と学校給食センターや地域ボランティアが協力した食育活動の実施、生産者と消費者の交流、行政の中でも課を越えての協力した食育推進活動が盛んに行われています。特に、学校給食センターを中心にして、竜王町産の米や野菜を給食で利用する取組みが進んでおり、子どもへの食育は積極的に取り組んできているところです。

しかし、現代の日本では食生活は質・量ともに豊かになり、外食・中食^{*}・冷凍食品が普及し多様な食生活を気軽に楽しむことができるようになった一方で、家族が一緒に食事をする機会が減り、子どもが一人で食事を食べる「孤食^{*}」が増えており、親から子へ伝えられてきた食に関する知識や伝統が伝わりにくくなっています。また、実際の栽培や調理をする機会も少なく、食物への感謝の気持ちを育む機会も減っています。

成人期では、健康に対する意識は高まっているものの、脂質の過剰摂取や野菜の摂取不足、朝食の欠食など、栄養の偏りや食習慣の乱れがみられ、生活習慣病の原因となる肥満者の割合が増加する一方、若い女性ではやせ願望といった現象も見られています。

豊かな食生活を送っている日本ですが、日本の食料自給率は先進国の中でも特に低く、他の国に食料を頼っている一方で、食べ残しや賞味期限切れなどに伴う廃棄等が大量に発生しています。

このようなことから、一人ひとりが正しい情報を得て、「バランスのよい食」「安全な食」等を選択する能力を身に付けることが必要となっています。

食は知育・体育など全ての基本となるものであり、竜王町民が健康な生活を送るためには、家庭のみならず学校、地域、事業所等が連携し食に関する知識や食を選択する能力を身につけることが重要な課題となっています。自然豊かな竜王町の特性を生かして、栽培、収穫、調理、食事の一連の体験を通じ、食を選択する能力を乳幼児期・学齢期に身につけ、成人期や壮年期、高齢期においても継続して食育に取り組んでいけるよう施策を講じていく必要があります。

※中食（なかしょく）：レストラン等へ出かけて食事をする「外食」と、家庭内で手作り料理を食べる「内食」の中間にあって、市販の弁当やそう菜等、そのまま食事として食べられる状態に調理された食品の総称。

※孤食：食事を家族と一緒にではなく、一人で食べること。